

文化講演会(総合文化研究所「文化の多様性」プロジェクト)

カタジーナ・チフェルトカ  
(ライデン大学教授)

## 食品包装の変遷

——日本・ポーランド・オランダの「食」  
比較研究

毎日の生活のなかで「包装」は当たり前のものでして扱われる。人々は習慣的に日用品を購入し、包みから中身を取り出し、それらを消費する。残ったものがごみになった時点で、初めて意識され、どう分別すべきか考える。歴史的な視点から見れば、このような状況が生まれたのはつい最近である。三ヶ国の食品包装を例に、その社会的変遷を追及する。

日時: **2020年2月5日(水) 14:00-15:30**

会場: 東京外国語大学 研究講義棟 422 総合文化研究所

主催: 東京外国語大学 総合文化研究所

共催: 東京外国語大学国際日本学研究院 CAASユニット

使用言語: 日本語

お問合せ: 沼野恭子研究室 [nukyoko@tufs.ac.jp](mailto:nukyoko@tufs.ac.jp)

\*一般公開・無料・予約不要

### 【Katarzyna J. Cwiertka】

ポーランド出身。ワルシャワ大学日本語科卒業。  
ライデン大学で博士号取得。

著書に *Modern Japanese Cuisine: Food, Power and National Identity* (Reaktion, 2006) *Branding Japanese Food: From Meibutsu to Washoku* (University of Hawai'i Press, 2020), 編著に *Asiatic Food: The Global and the Local* (Routledge 2001), *Food and War in Mid-Twentieth-Century East Asia* (2013)等がある。

2019年度冬学期、CAAS特別招へい教員として“Food, Globalization and National Identity”を教える。



GLOBAL JAPAN STUDIES

